

令和2年度ノウフク就労支援円滑化地域モデル構築（就労体験実証事業）業務委託仕様書

1 目的

農業分野において施設外就労（障害福祉サービス事業所による作業請負）に取り組むには、農業者、農業関係者側が障がい者に対する理解を深めるとともに、障害福祉サービス事業所の障がい者に農作業を体験してもらい、障がい者、福祉関係者側が作業内容等を知ることが必要である。

そこで、就労体験の実証と指導人材の確保・育成を通じて、農業での施設外就労を実施できる体制づくりを検討する。

2 業務委託期間

契約日から令和3年3月5日（金）まで

3 業務内容

ア 就労体験の実施、検証

- ・農業法人等と障害福祉サービス事業所が連携して、必要に応じて関係者の研修実施や農業ジョブトレーナーなどの専門人材の助言・指導を得ながら、障がい者が取り組みやすい仕事の切り出しを行い、毎回複数人の障がい者が参加し、15日以上就労体験を実施する（就労体験に参加する農業法人等が複数の場合は、合計して15日以上となること）。この際、様々な農作業を取り入れ、多様な就労体験となるよう配慮するとともに、体験活動に参加する農業法人等や障害福祉サービス事業所以外の近隣の法人や事業所に、あらかじめその活動の時期・内容等を広く周知し、作業等の取組状況を広く公開して行うよう努めるものとする。
- ・作業内容毎の作業難易度、障がい者が取り組みやすい作業の方法、理解しやすい指導方法等を調査し、施設外就労として継続可能な農作業を抽出する。
- ・体験活動に参加した農業法人等や障害福祉サービス事業所、その近隣の法人や事業所等が施設外就労を実施できる体制を検証する。具体的には、関係者による協議や先進事例調査などを行いながら、施設外就労の実行に向けた課題の抽出と共有化を図るとともに、解決策の提案を行う。

イ 施設外就労拡大のための情報収集・発信

- ・農業法人等が発注できる作業や障害福祉サービス事業所が受注できる作業等を収集・整理したうえで、上記の就労体験の結果と合わせて、施設外就労の拡大に向けた報告会等を開催すること。

ウ 前記ア、イの実施に当たり使用できる経費の種類

経費区分	内容
会場借料	報告会等を開催する場合の会場費として支払われる経費
通信運搬費	PR資料、報告会の開催通知等の郵送経費
印刷製本費	PR資料、報告会用の資料等の印刷製本の経費
原材料費	調査、作業改善に係る試作に必要な材料の経費
消耗品費	調査、作業改善に用いる小額な器具等の経費（耐用年数が1年未満もしくは取得価格5万円未満のもの）

旅費	就労体験の調査・実施及び研修受講等の際に要する旅費
賃金	就労体験の調査・実施にかかる職員の賃金
報償費	農業ジョブトレーナー、施設外就労コーディネーター、研修講師等謝礼 (参考) 農業ジョブトレーナー報償費：(一社) 三重県障がい者就農促進協議会からの派遣参考単価 2,000 円/時間
謝金	農業法人等への就労体験の調査、作業改善等に係る協力費
委託費	器具の開発、PR 資料のデザイン提案等を第三者へ委託することが必要かつ合理的・効果的な場合に限り実施できるものとする。
保険料	就労体験の実施に係る損害保険料・賠償責任保険料
手数料	必要経費の振込手数料等
その他経費	上記に定めのない経費を負担する場合はあらかじめ県と協議し決定する。

エ その他

- ①就労体験に参加する障害福祉サービス事業所の要件
 - ・三重県内の障がい福祉サービス事業所であること。
 - ・厚生労働省が示す施設外就労を行う場合の職員の人員配置基準にもとづき、就労体験作業中に、障がい者を指導する責任者として、障害福祉サービス事業所職員を配置すること。
 - ・就労体験を受け入れる農業法人等と、過去に作業受託契約を締結していないこと。
- ②就労体験に参加する農業法人等の要件
 - ・三重県内で農業を営む農業者、農業法人等であること。
 - ・障がい者に農畜産物の生産（当該農畜産物の加工・販売を含む）等に携わる作業機会を提供することができること。且つ障害福祉サービス事業所職員に対して作業の十分な説明および指導を行うことができる責任者を配置できること。
 - ・就労体験に参加する障害福祉サービス事業所と、過去に作業委託契約を締結していないこと。
- ③受託事業者の要件
 - ・県内で農業を営む農業者、農業法人等及びそれらが組織する団体
 - ・障害者総合支援法に基づく、県内の障害福祉サービス事業所
 - ・障害者就業・生活支援センター、社会就労センターなど県内の障がい者の就労継続、移行支援、雇用等のサービス事業所をサポートする組織
 - ・上記3点のいずれかを満たし、かつ農業分野における施設外就労の実施に意欲あるもの
- ④業務の実施にあたっては、新型コロナウイルス感染防止策を講じること。防止策については、国や県が定める指針などを参考に実施すること。
※現在の新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた「三重県指針」は次のHPを参照。
<https://www.pref.mie.lg.jp/covid19.shtm>

4 契約上限額 700,024円（消費税及び地方消費税を含む）

5 参加条件

次に掲げる条件をすべて満たした者とする。

(1) 参加者資格

- ア 当該企画提案コンペに係る契約を締結する能力を有しない者又は破産者で復権を得ない者でないこと。
- イ 暴力団による不当な行為の防止等に関する法律（平成三年法律第七十七号）第三十二条第一項各号に掲げる者でないこと。

(2) 優秀提案者資格

- ア 三重県建設工事等資格（指名）停止措置要領により資格（指名）停止を受けている期間中である者でないこと。
- イ 三重県物件関係落札資格停止要綱により落札資格停止措置を受けている期間中である者又は同要綱に定める落札資格停止要件に該当する者でないこと。
- ウ 三重県税又は地方消費税を滞納している者でないこと。

6 納品する成果品

以下の成果品を三重県農林水産部担い手支援課あて、令和3年3月5日（金）までに、正本1部、副本1部のほか電子媒体（CD-ROM等）にて提出してください。

- ア 業務の実施概要及び成果に関する委託業務実績報告書
- イ その他必要と思われる資料

7 障がいを理由とする差別の解消の推進

受託者は、業務を実施するにあたり、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律を遵守するとともに、同法第7条第2項（合理的配慮の提供義務）に順次適切に対応するものとする。

8 個人情報の保護

本事業による事務を処理するための個人情報の取扱いについては、別記「個人情報の取扱いに関する特記事項」を遵守すること。

8 その他

本仕様書に定めのない事項や細部の業務内容については、県と協議して実施するものとする。

別記

「個人情報の取扱いに関する特記事項」

注) 「甲」は実施機関を、「乙」は受託者をいう。

(基本的事項)

第1条 乙は、個人情報の保護の重要性を認識し、この契約による事務の実施に当たっては、個人の権利利益を侵害することのないよう、個人情報を適切に取り扱わなければならない。

また乙は、個人番号を含む個人情報取扱事務を実施する場合には、「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」(平成25年法律第27号。以下「番号法」という。)等関係法令を遵守すること。

(秘密の保持)

第2条 乙は、この契約による事務に関して知ることができた個人情報を甲の承諾なしに他人に知らせてはならない。この契約が終了し、又は解除された後においても同様とする。

(責任体制の整備)

第3条 乙は、個人情報の安全管理について、内部における責任体制を構築し、その体制を維持しなければならない。

(責任者等の報告)

第4条 乙は、この契約による個人情報の取扱いの責任者(以下「個人情報保護責任者」という。)及び業務に従事する者(以下「作業従事者」という。)を定め、甲に報告しなければならない。

2 乙は、前項の個人情報保護責任者及び作業従事者を変更する場合は、あらかじめ甲に報告しなければならない。

(作業場所等の特定)

第5条 乙は、個人情報を取り扱う場所(以下、「作業場所」という。)とその移送方法を定め、業務の着手前に甲に報告しなければならない。

2 乙は、作業場所及び移送方法を変更する場合は、事前に甲に報告しなければならない。

3 乙は、甲の事務所内に作業場所を設置する場合は、個人情報保護責任者及び作業従事者に対して、身分証明書を常時携帯させ、名札等を着用させて業務に従事させなければならない。

(収集の制限)

第6条 乙は、この契約による事務を処理するために個人情報を収集するときは、事務の目的を明確にするとともに、事務の目的を達成するために必要な範囲内で、適法かつ公正な手段により行わなければならない。

2 乙は、この契約による事務を処理するために個人情報を収集するときは、甲が指示した場合を除き、本人から収集しなければならない。

(利用及び提供の制限)

第7条 乙は、この契約による事務に関して知り得た個人情報を契約の目的以外の目的のために利用し、又は第三者に提供してはならない。

(教育の実施)

第8条 乙は、この契約による事務に従事している者に対して、在職中及び退職後において、その事務に関して知ることができた個人情報を他に漏らしてはならないこと、契約の目的以外の目的に使用してはならないこと及び三重県個人情報保護条例(以下「条例」という。)第13条、条例及び番号法に定める罰則規定並びに本特記事項において従事者が遵守すべき事項、その他この契約による業務の適切な履行に必要な事項について、教育及び研修をしなければならない。

(派遣労働者等の利用時の措置)

第9条 乙は、この契約による事務を派遣労働者、契約社員その他の正社員以外の労働者に行わせる場合は、正社員以外の労働者に本契約に基づく一切の義務を遵守させなければならない。

2 乙は、甲に対して、正社員以外の労働者による個人情報の処理に関する結果について責任を負うものとする。

(再委託の禁止)

第10条 乙は、この契約による事務を行うための個人情報の処理は、自ら行うものとし、甲が承諾した場合を除き、第三者にその処理を委託してはならない。

また、甲の承諾を得て乙が再委託する場合には、乙は、本条第2項から第6項の措置を講ずるもの

とし、再々委託を行う場合以降も同様とする。

2 乙は、個人情報の処理を再委託する場合又は再委託の内容を変更する場合は、あらかじめ次の各号に規定する項目を記載した書面を甲に提出して前項の承諾を得なければならない。

- 一 再委託する業務の内容
- 二 再委託先
- 三 再委託の期間
- 四 再委託が必要な理由
- 五 再委託先に求める個人情報保護措置の内容
- 六 前号の個人情報保護措置の内容を遵守し、個人情報を適切に取り扱うという再委託先の誓約
- 七 再委託先の監督方法
- 八 その他甲が必要と認める事項

3 乙は、再委託を行ったときは遅滞なく再委託先における次の事項を記載した書面を甲に提出しなければならない。

- 一 再委託先
- 二 再委託する業務の内容
- 三 再委託の期間
- 四 再委託先の責任体制等
- 五 再委託先の個人情報の保護に関する事項の内容及び監督方法
- 六 その他甲が必要と認める事項

4 乙は、前項の内容を変更する場合は、事前に書面により甲に報告しなければならない。

5 乙は、再委託を行った場合、再委託先にこの契約に基づく一切の義務を遵守させるとともに、乙と再委託先との契約内容にかかわらず、甲に対して、再委託先による個人情報の処理及びその結果について責任を負うものとする。

6 乙は、再委託を行った場合、その履行状況を管理・監督するとともに、甲の求めに応じて、管理・監督の状況を甲に対して適宜報告しなければならない。

(個人情報の適正管理)

第 11 条 乙は、この契約による事務を行うために利用する個人情報を保持している間は、次の各号の定めるところにより、個人情報の管理を行わなければならない。

- 一 施錠が可能な保管庫又は施錠若しくは入退室管理可能な保管室で厳重に個人情報を保管すること。
- 二 甲が指定した場所へ持ち出す場合を除き、個人情報を定められた場所から持ち出さないこと。
- 三 個人情報を電子データで持ち出す場合は、電子データの暗号化処理又はこれと同等以上の保護措置を施すこと。
- 四 甲から引き渡された個人情報を甲の指示又は承諾を得ることなく複製又は複写しないこと。
- 五 個人情報を電子データで保管する場合、当該データが記録された媒体及びそのバックアップの保管状況並びに記録されたデータの正確性について、定期的に点検すること。
- 六 個人情報を管理するための台帳を整備し、責任者、保管場所その他の個人情報の取扱いの状況を当該台帳に記録すること。
- 七 作業場所に、私用パソコン、私用外部記録媒体その他私用物を持ち込んで、個人情報を扱う作業を行わせないこと。
- 八 個人情報を利用する作業を行うパソコンに、個人情報の漏えいにつながると考えられる業務に関係のないアプリケーションをインストールしないこと。

(受渡し)

第 12 条 乙は、この契約において利用する個人情報の受渡しに関しては、甲が指定した手段、日時及び場所で行うものとし、個人情報の引渡しを受けた場合は、甲に受領書を提出しなければならない。

(個人情報の返還、廃棄又は消去)

第 13 条 乙は、この契約による事務を処理するために甲から引き渡され、又は自らが収集し、若しくは作成した個人情報について、事務完了後、甲の指示に基づいて個人情報を返還、廃棄又は消去しなければならない。

2 乙は、第 1 項の個人情報を廃棄する場合、記録媒体を物理的に破壊する等当該個人情報が判読、復元できないように確実な方法で廃棄しなければならない。

3 乙は、パソコン等に記録された第 1 項の個人情報を消去する場合、データ消去用ソフトウェアを使

用し、通常の方法では当該個人情報判読、復元できないように確実に消去しなければならない。

4 乙は、個人情報を廃棄又は消去したときは、廃棄又は消去を行った日、責任者名及び廃棄又は消去の内容を記録し、甲に報告しなければならない。

5 乙は、廃棄又は消去に際し、甲から立会いを求められた場合は、これに応じなければならない。

(点検の実施)

第 14 条 乙は、甲から個人情報の取扱いの状況について報告を求められた場合は、個人情報の取扱いに関する点検を実施し、直ちに甲に報告しなければならない。

(検査及び立入調査)

第 15 条 甲は、本委託業務に係る個人情報の取扱いについて、本特記事項に基づき必要な措置が講じられているかどうか検証及び確認するため、乙及び再委託先等に対して検査を行うことができる。

2 甲は、前項の目的を達するため、作業場所を立入調査することができるものとし、乙に対して必要な情報を求め、又はこの契約による事務の執行に関して必要な指示をすることができる。

(事故発生時の対応)

第 16 条 乙は、この契約による事務の処理に関して個人情報の漏えい等の事故が発生した場合は、その事故の発生に係る帰責の有無に関わらず、直ちに甲に対して、当該事故に関わる個人情報の内容、件数、事故の発生場所、発生状況を書面により報告し、甲の指示に従わなければならない。

2 乙は、甲と協議のうえ、二次被害の防止、類似事案の発生回避等の観点から、可能な限り当該漏えい等に係る事実関係、発生原因及び再発防止策の公表に努めなければならない。

(契約の解除)

第 17 条 甲は、乙が本特記事項に定める義務を履行しない場合は、この契約による業務の全部又は一部を解除することができる。

2 乙は、前項の規定による契約の解除により損害を受けた場合においても、甲に対して、その損害の賠償を請求することはできないものとする。

(損害賠償)

第 18 条 乙の故意又は過失を問わず、乙が本特記事項の内容に違反し、又は怠ったことにより、甲に対する損害を発生させた場合は、乙は、甲に対して、その損害を賠償しなければならない。